

## 第 32 回歴史地震研究会（京丹後大会）のお知らせ（第 3 報）

歴史地震研究会第 32 回大会(京丹後大会)のプログラムが決まりました。

1925 年北但馬地震から 90 年、1927 年北丹後地震から 88 年を迎える今年、9 月 21 日～23 日(5 連休後半)に京都府京丹後市峰山の京丹後市峰山総合福祉センターにて歴史地震研究会大会を開催いたします。興味のある方はこの機会にぜひご参加ください。

なお、研究発表会参加者には予稿集代として会員 1000 円、非会員 2000 円をいただきます。また、懇親会 (参加費 6500 円)と巡検 (参加費 6000 円；定員 50 名)は、実費として参加費をいただきます。なお、巡検は会員優先とさせていただきますことを、ご了解くださいますようお願い申し上げます。

参加ご希望の方は 7 月 31 日までに電子メール rekishi2015@eri.u-tokyo.ac.jp (歴史地震研究会行事委員会)あてにお申し込みください。巡検参加希望の方は保険加入のため氏名のほか、住所・生年月日・電話番号 (携帯電話可)をお知らせください。

### 第 32 回歴史地震研究会（京丹後大会）プログラム

発表者名に\*を付けた方が登壇者です。

#### ○9 月 21 日（月曜・祝）研究発表会 1 日目・懇親会

8：00 開場・受付開始

#### 口頭発表セッション 1 平安時代～桃山時代の地震 (8：30～9：45)

##### O-1 石橋克彦\*

「1099 年康和南海地震は実在せず、1096 年永長地震が東海・南海地震だった」という作業仮説

##### O-2 浦谷裕明\*・小川典芳・久永哲也・内田篤貴・武村雅之・都築充雄

明応年間の関東地方における地震津波被害像と明応関東地震について

##### O-3 山本博文\*・ト部厚志・佐々木直広

津波堆積物から見た若狭湾を襲った 14～16 世紀頃の大津波について

##### O-4 松岡祐也\*

1586 年天正地震における伊勢湾沿岸地域の被害について

##### O-5 松崎伸一\*・日名子健二・平井義人

文禄五年豊後地震における奈多宮の津波高

#### 口頭発表セッション 2 江戸時代の地震 I (9：45～11：00)

##### O-6 西山昭仁\*

寛文二年 (1662) 近江・若狭地震における京都盆地での被害評価

##### O-7 松浦律子\*・中村 操

1703 年元禄地震の新地震像

##### O-8 中村 操\*・松浦律子

1707 年宝永地震の余震被害について

##### O-9 今井健太郎\*・高橋成実・大林涼子

最新の地下構造調査に基づく 1833 年天保出羽沖地震の波源断層評価

O-10 木戸崇之\*

伊賀上野地震で決壊した『奈良・古市村のため池』の位置について

休憩 (11:00~11:15)

口頭発表セッション3 江戸時代の地震Ⅱ (11:15~12:30)

O-11 都築充雄\*・平井 敬・中井春香・山本真一郎・倉田和己

安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理(その1) 目的と地図情報化事例

O-12 鳴橋竜太郎\*

南伊勢西部地域における安政東海地震津波(1854年)の被害状況

O-13 村岸 純\*・佐竹健治・石辺岳男・原田智也・西山昭仁

1855年安政江戸地震における江戸近郊での被害

O-14 中村亮一\*・西山昭仁・村岸 純・佐竹健治・石辺岳男

1855年安政江戸地震の広域震度分布の特徴とそれによる震源像について

O-15 矢田俊文\*

1858年飛越地震の史料と家屋倒壊率—飛騨国を事例として—

昼休み (12:30~13:30)

ポスターセッション (13:30~15:15)

P-1 白石睦弥\*

青森県・秋田県の日本海沿岸地域における歴史地震

P-2 石橋克彦\*

1361年康安南海地震で法隆寺の塔の九輪は本当に燃えたのか?

P-3 石橋正信\*・高橋成実・馬場俊孝・今井健太郎・大林涼子

和歌山県における津波碑の空間分布に関する現地調査

P-4 久永哲也\*・内田篤貴・浦谷裕明・小川典芳・武村雅之・都築充雄

明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その4)

P-5 行谷佑一\*・今井健太郎・村上仁士

安政南海地震津波による徳島県宍喰町での津波高さと被害分布

P-6 盆野行輝\*

宝永・安政地震の城郭被害～志摩国鳥羽城を中心に～

P-7 小松原琢\*

死者率に基づく内陸地震の震央の推定-安政飛越地震の事例-

P-8 蝦名裕一\*・佐竹健治

明治三陸地震津波以前の災害認識—東京帝国理科大学の調査資料から—

P-9 松浦律子\*

1894年明治東京地震, 1895年霞ヶ浦の地震など, いくつかの明治・大正の地震の再検討(その3)

P-10 蟹江由紀\*・蟹江康光・布施憲太郎

関東大震災の空撮と地上写真 —逗子町の地盤液状化・津波・がけ崩れ—

P-11 西田良平\*・香川敬生・野口竜也・石賀晶仁

北丹後地震・鳥取地震・北但馬地震の文献集

P-12 原田智也\*・室谷智子・佐竹健治・古村孝志

地震直後に行われたアンケート調査による 1944 年東南海地震・1945 年三河地震の震度分布

P-13 橋本雄太\*・加納靖之・大邑潤三

Text Encoding Initiative ガイドラインに基づく古地震史料のマークアップ

P-14 兵藤守\*・堀 高峰

数値シミュレーションからみた明応南海トラフ地震シナリオ

口頭発表セッション 4 近代の地震 15 : 15~16 : 30

O-16 塩川太郎\*

台湾における地震記念碑の変遷

O-17 武村雅之\*

古都鎌倉の関東大震災を歩く―世代を越えた社寺復興

O-18 蟹江康光\*・布施憲太郎・蟹江由紀

関東大震災の海軍空撮写真-はじめて公開された神奈川県沿岸域の写真を中心として-

O-19 蝦名裕一\*・今井健太郎・首藤伸夫

山名宗真史料にみる岩手県沿岸の歴史津波

O-20 白石睦弥\*

昭和三陸津波（1933）における共助と復興支援

口頭発表セッション 5 南海トラフの地震履歴 16 : 30~17 : 15

O-21 谷川 亘\*・山本裕二・村山雅史・井尻 暁・廣瀬丈洋・星野辰彦・若木重行・徳山英一

歴史南海地震の理解にむけた高知県西部の海底構造物の地質学的研究

O-22 三神 厚\*・中西一郎・古川和輝・横山裕樹

南海トラフを震源とする地震による地殻変動に伴う四国の地盤の沈降や隆起

O-23 宍倉正展\*・前杵英明・越後智雄・行谷佑一

紀伊半島南部串本周辺における古地震・古津波痕跡について

口頭発表セッション 6 古地震データベースとその利活用 17 : 15~18 : 00

O-24 石辺岳男\*・佐竹健治・村岸 純・鶴岡 弘・中川茂樹・酒井慎一・平田 直

テンプレートマッチングに基づく大地震の震源・発震機構解推定

O-25 山中佳子\*

新収日本地震史料および拾遺の DB 化とその検索システムの作成

O-26 加納靖之\*・服部健太郎・中西一郎・安国良一・五島敏芳・渡辺周平・岩間研治・福岡 浩

京都大学理学部に所蔵されている自然災害史料の解読と画像化

18 : 40~20 : 40 懇親会

○9月22日（火曜・祝）研究発表会2日目・公開講演会・総会

口頭発表セッション 7 戦前～戦後の地震 8 : 00~9 : 15

O-27 林信太郎\*・渡部公成・吉成洸人

1939 年男鹿地震と 1955 年二ツ井地震-地震体験者へのヒアリング調査

O-28 香川敬生\*・畑岡 寛

1943年鳥取地震直後に実施された東京大学地震研究所の現地調査の足取り

O-29 中井春香\*・武村雅之

三河地震の石碑にみる土地改良と復興の歴史

O-30 安藤正純\*

昭和南海地震における宮崎県の被害状況

O-31 樋口茂生\*・阿部裕寛・東 将士・稲田 晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田 聡・川崎健一・楠

恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邊拓美

現代生成層-災害との関わりの補遺-

口頭発表セッション8 災害伝承と地震・津波防災 9:15~10:45

O-32 井上公夫\*・相原延光

「びやく」という土砂災害の事例紹介と分布について

O-33 相原延光\*・井上公夫

”びやく”の言語学的調査の紹介

O-34 河内一男\*

地震に関する地名はなぜ残らなかったのか

O-35 松尾裕治\*・村上仁士

四国の防災風土資源マップ~地震・津波事例について~

O-36 (招待講演:発表時間20分) 岡本侑也\*・東海志音\*・平田美緒\*

印南中学校の津波防災教育の取り組み(災害記録を利用した取り組みを中心として)

O-37 (発表時間10分) 宇佐美龍夫\*

續 なるの反古拾い

休憩 10:45~11:00

口頭発表セッション9 京丹後周辺の地震・津波と活断層 11:00~12:30

O-38 都司嘉宣\*

昭和2年(1927)北丹後地震の家屋倒壊と死者率のちがいについて

O-39 水田敏彦\*・鏡味洋史

1927年北丹後地震の積雪による被災と対応に関する文献調査

O-40 中西一郎\*・服部健太郎・加納康之・渡辺周平

京都大学に残る1925年北但馬地震・1927年北丹後地震調査資料について(2)

O-41 内田淳一\*・宮脇昌弘

郷村断層沿いに見いだされる断層露頭と断層ガウジの色彩の特徴

O-42 羽鳥徳太郎\*

山陰沿岸における歴史津波と日本海東縁津波の波高分布

O-43 新谷勝行\*

『丹後地震誌』の編さんとその意義~郷土史家永浜宇平が残した丹後震災の記録~

昼休み 12:30~13:30

公開講演会「丹後震災から88年-地震災害と復興-」(仮)

13:30~16:00(参加費無料・自由参加)

植村善博(佛教大学) 「北但馬・北丹後地震の被害と復興過程」  
松井敬代(豊岡市教育委員会) 「(仮)北但馬地震の復興建築」  
新谷勝行(京丹後市教育委員会) 「北丹後地震の記念碑・震災記念館と復興建築」

総会 16:40~17:40

○9月23日(水曜・祝) 巡検「北丹後地震(1927)からの復興」

9:00 峰山町総合福祉センター出発 → (徒歩移動) 峰山町内震災復興建築など、丹後震災記念館  
→ (バス移動) 郷村断層 → 琴引浜・琴引浜鳴き砂文化館 → 京都丹後鉄道網野駅 16:00 解散

